

22年度春季レース実施にあたり 新型コロナウイルス感染予防対策徹底のお願い!

昨年未見だった新たな変異株(オミクロン株)は、従来株の約6倍強い感染力を有し、全国の新規感染者数はこれまでに経験したことのないスピードで急速な増加を続けています。それに伴い、現在(1月28日時点)34都道府県に対して『まん延防止重点措置』が適用されております。

そんな中、2月上旬から本格的に22年度春季レースがスタートします。あらためて、まん延防止重点措置該当地域のみならず、感染予防対策を徹底していただきますようお願いいたします。22年度春季レースを安全に実施するためには、より一層徹底した感染予防対策が必要不可欠です!! 全国の地区連盟・連合会におかれましては、下記事項に十分ご留意いただき、感染予防対策の徹底を改めてお願いいたします。持ち寄り・審査の際の対策及び放鳩地との連携なども、あらためて確認実践をお願いいたします。



持ち寄りにおける対策の一例

- ①マスクの着用(フェイスシールドも好ましい)
- ②手指のアルコール消毒
- ③持ち寄り場に入出入りする会員は必ず検温を行う。
注) 37.5度以上の熱がある会員は、各団体責任者の指示に従う。
- ④屋内で持ち寄り作業を行う場合は、必ず窓やドアを開けるなどして換気を行う。
注) 窓やドアを全開にすると鳩が逃げる危険があるので、鳩が出られない程度に開ける。
- ⑤ソーシャルディスタンス(人と人の距離)を確保する。
 - * 持ち寄りの際には隣の人と距離をとる(1.5メートル以上が好ましい)。
 - * 屋内で作業を行う場合は、番号札などで持ち寄りの順番を決めて、順番がまわってくるまで屋外で待機するなどの対策をとる。
 - * 自動記録機の操作担当者とクラブアンテナ担当者との間には、ビニールシートやアクリル板などを設置するとより飛沫防止対策がとれる。
 - * コンテナに鳩を積み込む際は、コンテナに鳩を投入する係、籠を運搬する係を少人数に限定しておく、3密を回避することができる。
- ⑥コンテナに全鳩を収容した時点で速やかに解散する。持ち寄りのスタート時間を早めるなど、20時までに作業が終了できるようなスケジュールを組む。
- ⑦持ち寄り作業中は、私語及び喫煙、飲食を控える。
- ⑧屋外で持ち寄り作業を行う団体は、周囲の住民感情に十分配慮し、問題を惹起することのないよう注意する。

審査会場における対策の一例

- ①マスクの着用(フェイスシールドも好ましい)
- ②手指のアルコール消毒
- ③審査会場に出入りする会員は必ず検温を行う。
注) 37.5度以上の熱がある会員は、各団体責任者の指示に従う。
- ④審査会場は必ず窓やドアを開けるなどして換気を行う。
- ⑤ソーシャルディスタンス(人と人の距離)を確保する。
* 審査会場内に滞在する会員の人数は最小限に抑える(人と人の距離は1.5メートル以上が好ましい)。また、パソコンの操作担当者と自動記録機の操作担当者との間には、ビニールシートやアクリル板などを設置するとより飛沫防止対策がとれる。
* 各会員は審査担当者に自動記録機を手渡し、会場の外で待機する。
- ⑥審査終了後は、速やかに解散する(審査スタート時間を早めるなど、20時までに終了できるようなスケジュールを組む)。
- ⑦審査会場内にいる会員及び会場の外で待機している会員は、私語及び喫煙、飲食を控える。



↓持ち寄り受付では、消毒と検温を行い、自動記録機を預かっている。



2020/10/31



※20年秋季レース開催に際して、各団体が独自の感染予防対策を行っていました。東坂東連盟・関東南部連合会と東京中連盟・東京真鳩連合会が行った感染予防対策の一部を紹介します。ぜひ参考にしてください。

レース実施における判断と対応

- ①各地区連盟の地元各都道府県がとっている新型コロナウイルス感染拡大防止対策、施策などを十分考慮してレース実施の判断を行う。
- ②放鳩予定地の地区連盟、連合会と連携し、放鳩地の現地各都道府県による感染拡大防止に関する対応を確認する。放鳩予定地の現地住民の感情にも十分配慮し、問題を惹起することのないよう注意する。
- ③放鳩実施にあたっては、実施団体と放鳩地にあたる地区連盟、連合会とが相互に協力する。

重要!!

万一、傘下会員に新型コロナウイルス陽性者が発生した場合は、即時に適正な判断・対応をお願いします。